



よしだ つ う し ん

吉田通心

第136号
【2026年1月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通心は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一個人通信です■■

◆「仕事研究フェスタ」で痛感したこと◆

こんにちは。お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通心第136号をお送りいたします。よろしくお願いいたします。

さて、先日、1月4日（日）に新潟市中央区のコンベンション施設、朱鷺メッセにて開催されました就職準備イベント「仕事研究フェスタ」に吉運堂としてブースを出してきました。2027年卒予定の学生さんに対し、会社情報やインターンシップ情報などをお伝えする場です。

吉運堂としては7～8年前からこちらのイベントにブースを出していますが、今年、現場で見た光景から痛感したのは、これから新卒採用がますます難しくなっていくということでした。

まず、今回、このイベントには採用に意欲的な企業180社がブースを出していたのですが、なんとキャンセル待ちの企業もたくさんあったそうです。それに対して学生数は、昨年と比べ明らかに減少。今年、来場した学生数は600名を下回ったそうです。昨年は700名以上来ていて、一昨年は800名以上でしたので、毎年100名ずつ減っている状態です。

7～8年前を思い出してみますと、当時は本当にたくさんの学生が来ていて、そのため、企業側が学生を選別する形でしたが、今ではそれが逆転。学生が企業を選別しています。

新潟も人口減少は止まらず、それはつまり、学生が減り続け、採用がどんどん困難になっていく状況。それでも採用を続けなければ企業は成り立ちませんので、条件面を変えざるを得なくなってきました。

例えば、休日の日数を増やす。それから、最低賃金そのものが上がっていくでしょうから、賃金も全体的に上げていく。それを実現するためには、今いる社員が今まで以上に仕事の効率を上げる必要があります。



具体的には、ひとつの業務を2人以上ができるダブルキャスト、トリプルキャストであり、そのためのスキルアップが急務です。

一企業として生き残っていくために、それが喫緊の課題になると、新年早々、痛感いたしました。

◆発行者コラム◆

今回もまた最後までお読みいただきまして、どうもありがとうございます！さて、今年も例年通り、長男と一緒に二年参りに行ってきました。今年は雪が降り出した影響もあってか、比較的、空いていました。また、縁起物である熊手を今年も購入。昨年は一昨年と同じ値段のものを購入したところ、少しサイズダウンしていて、ステルス値上げが疑われたのですが、今年は昨年と同じ値段で昨年と同じサイズのものでした。さらなるサイズダウンがなくて、安心しました。吉田竹史

■吉田通心を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが025-372-1138までご連絡をお願いいたします。■

【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）
生年月日：昭和40年8月21日（O型）
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸＆ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）
家族構成：妻、娘、息子



吉運堂



吉田 竹史